

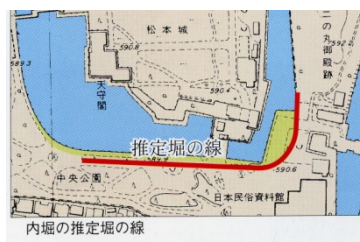
11-4

松本城の整備計画について(2)

18の整備項目の内、今回は6～18の項目の中から出題させていただきます。

- (6 内堀復元 7 黒門門台石垣の改修 8 市立博物館の移転 9 辰巳櫓の復元
10 古山地御殿跡整備 11 八千俵蔵の復元と周辺整備 12 西南外堀の復元
13 南隅櫓の復元 14 東北隅櫓の復元 15 二の丸御殿の復元 16 北馬場総堀の整備
17 御幸橋付近の総堀の整備 18 周辺景観の整備と町並みの保全)

- 1 2007年南側の内堀のラインを確かめるため発掘が行われ内堀石垣の痕跡を確認できた。この時、発掘地点を決めるよりどころとなった古絵図はどれか。



- ②享保十三年松本城下絵図 水野氏から戸田氏に代

わって城下町を実測して作った地図。方眼が切っており50間が1弁となっている。松本市重要文化財指定

現存する松本城町の絵図の中では一番信頼の置ける地図。縮尺はおよそ1/650

- 2 黒門門台の石積みの「せりだし」により起きている問題に2つ○を付けなさい。

①・③

黒門門台東側は昭和の大修理で積み直されたものである。西門台は残存しており補修を受けただけで積み直はしてはない。新しく積み直した東側門台の石積みのせり出しが目立つ。黒門北側の上がり口下は特にせり出しが目立つ。また東門台の下の石が上の石の重量のために割れているものも見られる。石を決めて目印をつけ定期的に観測している。西門台の南側には二つの石の間にガラス板を渡し目視による監視が行われている。いずれにしても黒門自体を持ち上げての門台の修理となり大がかりとなるため石垣を監視しつつ専門家の意見を仰いで計画を進めることになる。

- 3 古山地御殿については市立博物館移転後に発掘調査を行い平面復元をする計画である。

古山地御殿を復元せず平面復元(二の丸御殿跡のように部屋のあった位置を表示し建物は復元しない)とする主たる理由はどれか。 ③

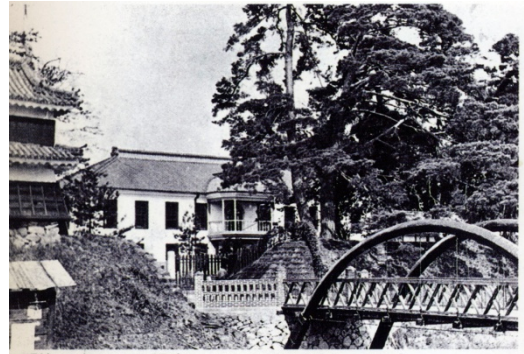
古山地御殿は現在の博物館の建物と西側の広場に当たる部分は「鷹部屋」があり復元すれば公園としての機能は



失われることになる。松本城公園は緊急時の避難場所でもあり平面復元にして市民公園として利用できるようにするのが適当と考えられているためである。

- 4 南隅櫓は現在大名町からの城の入り口にある電話ボックスの西側にあった櫓です。右の写真は南隅櫓が左側に写った写真です。南隅櫓復元に向けて大きな問題があります。それは为什么呢。

②写真の櫓は全体の1/3しか写って
おらず完全性の面で問題がある。



明治18年ころの写真 左に南隅櫓が写っている。

- 5 時々電話があり「二の丸御殿の写真を発見しました」と送られて来ますがそれはほとんど同右下の写真です。次のうち何番の写真でしょう。

①明治11年に建設された松本裁判所の写真

二の丸御殿は筑摩県庁として使用されたが明治9年焼失した。その後明治11年に松本裁判所が建てられた。右の写真は明治15年頃の撮影と見られている。



- 6 18項目目は「周辺景観の整備と町並み保存」上げられています。代表的な整備箇所として6項目が挙げられすでに武家屋敷などの歴史的建造物の保存や特色ある町割りや道路、諸門跡に説明板を設置する等は計画的に実施に移されています。あと4項目はなにか○を4つ付けなさい。

①四つの十王堂（一つは地藏堂と呼ばれている）

石川氏時代に城下町の東西南北の出入口に町の安全を願って十王堂を設けた。

西口（伊勢町）は元禄期城下町絵図には「地藏堂」と記されている。

②鉤の手・食い違いなど街路の整備と説明板の設置

松本の城下町の特徴である狭い小路、前方遮断のために設けられた鉤の手・食い違いなど街路の整備。近代化によって道路幅が拡張されたり、丁字路であった箇所が十字路に改良されている処もあり江戸時代の様子を説明板で表示する必要がある。

④ハンの木川・蛇川・紙漉川・辻井戸の整備（歴史的水路・井戸の整備）

水路・井戸は近代化の過程で大きく変貌した。水に恵まれた城下町松本として今残っているものは何か、何を残すべきかをしっかり見極めなければならない。

⑤残存土塁の整備

土井尻西総堀土塁の史跡及び整備はこの整備計画によって国史跡に指定された。

このほか市役所東庁舎南の東総堀土塁、民地となっているが市職員駐車場南側の北総堀土塁や捨堀土塁などの整備保存が今後考えられなければならない。

※御徒士町の高橋家（武家屋敷）が復元され来年度当初に公開される。